

Title	債権ポートフォリオのマネジメントに関する一考察
Sub Title	
Author	小口武(Oguchi, Takeshi) 太田康信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第591号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0591

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 小 口 武

主査 太 田 康 信

副査 関 谷 章

所属ゼミナール 太 田 康 信 研

田 中 滋

債券ポートフォリオのマネジメントに関する一考察

現在の金融活動の一つの鍵となっている機関投資家の債券投資管理に注目する。いままで株式投資のマネジメント技法と債券投資のマネジメント技法は独立に発展してきた。ところが債券のポートフォリオのマネジメント技法はポートフォリオにとって最も重要なリスク・リターンの関係が明らかにされていない。そのために株式ポートフォリオのマネジメントのフレームワークとして発展してきたモダン・ポートフォリオ理論(MPT)をよりどころとして、債券投資のリスク・リターンの関係を明らかにするためにMPTの応用についての考察を試みる。モデルとしてはシングル・インデックス・モデルを用い、債券は国債だけに絞る。ポートフォリオとして、現物と債券先物の組合せを考える。このポートフォリオの各期における収益率とリスクの関係を明示できるモデルを考え、実際のデータで実証の分析を試みる。その後既存の債券ポートフォリオのマネジメント技法との比較検討をおこなう。